

# 令和三年新年の御挨拶

大玉村商工会長 斎藤 泉

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。あわせて、昨年中に賜りましたご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

昨年の今頃は、震災から丸九年が過ぎようとする中、ようやく村内から汚染土がほぼ無くなり、いよいよ今年からは、新たな段階へ進めるのかなと感じていました。また、一昨年の台風来襲により、阿武隈川流域に多大な被害がもたらされました。その跡片付や復旧も進む中で、オリンピック・パラリンピックも開催せられ、震災以前にも益して、賑わいある地域づくりが出来るものと期待しておりました。

しかしながら、一昨年の中国武漢での、新型コロナウイルス感染者の確認に始まり、去年一月には、日本国内初の感染者確認の発表がありました。その後、二月に入ると、「ダイヤモンド・プリンセス号」船内でのクラスター感染が話題になり、中旬には、国内初の死者が確認され、下旬になると、大規模イベントの自粛要請や、全国の学校に対し臨時休校を要請する事態になりました。そして遂に三月下旬には、東京オリンピックの一年程度の延期が決定されました。その数日後に、志村けんさんが死亡したというショッキングな報道がありました。この報道により、日本国民のほとんどが、感染拡大の危機感を持つようになったように思われます。その後一ヶ月程で、感染拡大は収まったかのように思われましたが、七月中旬からの第二波と、その波が収まり切れないうちに、十一月下旬頃から現在に至る第三波と、収まるどころか最悪の感染状況になってしまいました。

福島県においても、年末にかけて病院等におけるクラスターが発生し、毎日多くの感染者が出る状態になってしまい、大玉村においても、三月からほとんどの会合や総会が中止され、特に懇親会は皆無となりました。

大玉村商工会も同様に、本会総会、青年部、女子部総会等、関係する全ての総会が書面決議になってしまいました。商工会のルーラルも全てキャンセルとなってしまいました。また、ほとんどの商工会会員の方々においても減収になり、特に飲食店関連の業種は、大変な御苦勞をされていることと思われまます。

大玉村商工会では、昨年より現在まで、村当局より依頼を受け、中小企業経営持続化繋ぎ交付金及び飲食店応援前払利用券等の事務手続を行っております。このコロナ禍で、殆どの業種が疲弊する中、特に「密」になるという事で、飲食業及び観光業関連の業種で、多大な影響が出ているようです。職員も、通常業務に加えての事務作業でありますので、負担も増えているかと思われまますが、大変頑張っております。今後とも役員員一丸となって、この困難な状況乗り越えて行きたいと思っております。

年頭に当たりまして、大玉村商工会の今年のスローガンを、

信じよう「明るい未来」を

創ろう「豊かなふる里」

とさせていただきます。

コロナ禍の中、世界中が大混乱となり、日本政府の政策も迷走し、それに伴い、地方自治体も国民も、何をどうすれば良いのか解らず、果てしない暗闇の中を彷徨っているかのようです。我々商工業者は、宣伝広告をし、イベント等をし、出来るだけ大勢の人々を集めることによって、商売が成り立っているのだと思います。しかし今、感染拡大防止から「密」を避けなければなりません。この矛盾する状況の中で、いかなる方法で商売を続けて行けるのでしょうか。

このような先の見えない暗闇の中、私達は何を思っ生きて行けば良いのでしょうか。

「朝の来ない夜はない。」という言葉があります。どんなに困難な、先の見得ない暗闇であっても、いつかは明るい未来が来ることを信じて、今何が出来るのかを、皆で考えて事業を進めていきたいと思っております。

私も会長として九回目のお正月を迎えました。これまでに賜りました、御指導、御協力に、心より感謝申し上げます。

「がんばろう福島」商工会は行きます 聞きます 提案します く会員満足向上運動く」をキャッチフレーズに、今年も役員員一同、頑張ってまいります。昨年まで以上の、ご支援、ご鞭撻をお願いし、今年一年のご多幸とご健康、並びに企業の御隆盛を御祈念申し上げて、年頭の挨拶と致します。

今年も宜しくお願致します。